夏の暑さも 面白いね！」で吹っ飛びます。

2006年8月20日 日）トレイルO体験会 in 新潟

新潟県協会
藤島由宇

障害者スポーツ支援基金助成事業として新潟県内で初めて一般の方向けにトレイルOイベントを実施しました。その報告です。

■スケジュール・役員■

8時30分　集合　受付・コース設置
10時　受付開始
15時　受付終了　撤収
15時30分　解散

役員（5名）：笛木勉（新潟県協会）、小林克多（村松OLC）、小林保（新潟市OLC）、山下友宏（長岡OLC）、藤島由宇（三条OLC）

受付・コース設置は分担し、説明は交代で行った。

■参加者の流れ■

① トレイルOとはどのようなスポーツなのかを車イスの人を中心に声をかけ説明する。このとき「参加費（100円）はやってみて面白かったら払ってください。つまらなかったら結構です」と言うと「掴み」の点で良い。
② やってみようと言う方には受付にて地図を渡し、役員と一緒にスタートする。
③ 最初のコントロールに到達したら、役員が実践しながら競技方法をより詳しく説明する。
④ コントロール間では地図の読み方について指導する。例えば「今私たちは地図上のどこにいますか？」とか「進む方向を前にして地図を持つと迷子になりにくいですよ」と話しながら歩く。
⑤ 参加者が理解するまで粘り強く丁寧に説明する。
⑥ 後半になったら説明を少なくし、参加者の様子を見ながら必要に応じて説明する。
⑦ ゴールのあと再び受付に戻り、正解表を渡して答え合わせをする。住所氏名などを記入し、アンケートに答えてもらい、参加費を徴収する。

第1コントロールでの説明

■参加者数■

16名。うち障害者4名。

■実験的に工夫した点■

オリエンテーリングを知らない方にトレイルOをしてもらうとき、まず壁となるのが「参加者は地図が読めるかどうか？」ということです。トレイルOの説明の前に地図の読み方の説明をしなければならないのです。そこでこの問題を解決するために、実験的にスクールOとキッズOの方法を取り入れる事にしてみました。

1　地図には磁北線を記入せず、コンパスも使用しない。（スクールO）
2　ルートをあらかじめ地図に記入しておき、現地にもテープを張っておく。（キッズO）

これ以外にもコース設定などで

3　コントロールはとても簡単なものを設定する。フラッグ数は最大3個で、ディシジョン・ポイントから見れば答えられる程度の難易度にする。コントロール位置説明も方角は入れないようにし、簡潔で分かり易いものにする。
4　コントロールの課題はバリエーション豊かにし、なるべく同じ特徴物を2回以上使わない。
5　ルートは単純なものにする（交差、出戻りなどを避ける）。
6　コントロール間の間隔を開けすぎない様にする。
7　地図にトレイルOのやり方を書いておく。

という点にも気をつけました。
1については初心者にはとても難しいコンパスの使い方指導を省略でき、有効であると思います。2については、今回はスタートからゴールまで役員が参加者に付き添っていたので、テープを張る必要は無かったかもしれません。

■反省点■

体験会の日程を決める際、8月20日は真夏の暑さが心配されていました。今年は最高気温が35度に達する日が続いていたのですが、当日も同様の暑さであり、正午前には既に「この暑さでは危ないのではないか？」と心配されるほどの蒸し暑さとなりましたため、トレイルOの体験を車イスの方に勧め難くなってしまいました。
また誘導テープについてはストリーマー方式でなく、1本のスズランテープを舗装されたエリアに張ることとしため、はがれない様にする対策に余分な労力が費やされた形となり、あるいは参加者が足を引っかけて転倒する可能性も生じるため、改善の必要がありました。
この反省を踏まえ、9月10日（日）のトレイルOのつどい in 新潟ではテープ誘導をストリーマー方式にし、テープの固定にはペットボトルとペグを用いてみることとしました。
車イスの方に声をかける際も、単独で来場している方よりも健常者が付き添っている方の方が体験してもらい易いという感触を得ました。

トレイルO体験会は9月30日（土）にも新潟県長岡市の長岡造形大学で行われます。

どの「植え込み」？

（藤島由宇）